

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

安全で安心な居場所で小さな成功体験を積み重ねることで、生徒を社会参画する市民として育て、社会に送り出すセーフティーネットとしての学校をめざす。

- 1 個に応じた学習指導の工夫に努め、学力の向上を図る。
- 2 生徒の自己実現を支援する進路指導を推進する。
- 3 豊かな心や社会性を育む。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成及び教員の授業力の向上

(1) 「わかる授業」「できる授業」「魅力的な授業」をめざした、授業改善に取り組み、主体的に学習する力を身に付けさせる。

- ア 観点別学習状況評価の充実や1人1台端末の活用などに向けた組織的な取組みを推進する。
- イ 授業アンケート等を効果的に活用し、校内研修や公開授業など、教員の授業力向上に向けた取組みを進める。
- ウ 一人ひとりの「学習環境」を確保するため、授業規律の確立に努める。

※生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすく楽しい」の肯定率を令和6年度まで85%を維持する。(R1:80% R2:79% R3:95%)

※教員向け学校教育自己診断における「授業改善に努めている」の肯定率を令和6年度まで90%を維持する。(R1:86% R2:70% R3:95%)

※生徒向け学校教育自己診断「授業中は学習できる雰囲気が保たれている」の肯定率を令和6年度には85%とする。(R1:67% R2:77% R3:78%)

2 キャリア教育及び進路指導の充実

(1) 将来の自立や社会参加、進路実現につながるキャリア教育や進路指導を推進するため、カウンセリング及びガイダンス機能の充実に取り組む。

- ア 一人ひとりの生活背景から理解し、生徒に寄り添い、支援・指導を充実させる。また、そのための生徒支援体制を充実させる。
- イ 卒業生や企業、大学、専門学校等の職員からの聞き取りを通して、生徒一人ひとりに将来像を確立させる。
- ウ 一人ひとりの勤労観を育成するため、適切な進路情報を提供し、生徒に理解を深めさせる。

※教員向け学校教育自己診断における「教職員のカウンセリングマインド」の肯定率を令和6年度まで90%を維持する。(R1:91% R2:96% R3:100%)

※生徒向け学校教育自己診断における「保健室など教室以外の所での居場所」の肯定率を令和6年度には85%とする。(R1:66% R2:65% R3:76%)

※生徒向け学校教育自己診断における「進路についての情報を知らせてくれる」の肯定率を令和6年度には85%とする。(R1:74% R2:74% R3:83%)

※保護者向け学校教育自己診断における「進路についての情報を知らせてくれる」の肯定率を令和6年度には90%とする。(R1:100% R2:50% R3:78%)

※学校幹旋の就職内定率を令和6年まで90%以上を維持する。(R1:90% R2:50% R3:100%)

3 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成

(1) 特別活動や生徒会活動を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を醸成する。

- ア 行事や生徒会活動、部活動などを通して、集団の中で人と調和し成功体験を得られるよう、生徒が主体となる活動を支援する。
- イ 人間関係形成能力を育成するため、「あいさつ運動」に取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における項目「学校行事に楽しく取り組んでいる」の肯定率を令和6年度には85%とする。(R1:70% R2:67% R3:72%)

※教員向け学校教育自己診断における項目「主体的な活動の支援」の肯定率を令和6年度まで90%以上を維持する。(R1:91% R2:82% R3:91%)

※生徒向け学校教育自己診断における「あいさつができてきている」の肯定率を令和6年度には90%とする。(R1:80% R2:69% R3:88%)

(2) 生命の尊さに気づかせ、自他を認める態度や人格を育成し、社会の一員としての自覚と責任を醸成する。

- ア 様々な人権問題の解決をめざし、人権教育に総合的に取り組み、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。
- イ 災害時等に生徒が自他の命を守ることができるよう、安全指導の充実を推進する

※生徒向け学校教育自己診断における項目「人権学習の機会」の肯定率を令和6年度まで90%以上を維持する。(R1:76% R2:85% R3:90%)

※教員向け学校教育自己診断における項目「人権尊重の生徒指導」の肯定率を令和6年度には90%以上とする。(R1:91% R2:87% R3:86%)

4 学校運営体制の確立及び人材の育成

(1) 迅速な意思決定により、機動力のある効率的な学校運営をめざす。

- ア 「学校組織運営に関する指針」に基づき、企画会議及び運営委員会を学校運営の核として位置づけた学校運営をすすめる。
- イ 分掌や年次会、委員会等、各組織間の連携を密にし、校務の効率化を図る。

※教職員向け学校教育自己診断における項目「分掌や年次の連携」の肯定率を令和6年度まで85%を維持する。(R1:86% R2:78% R3:86%)

※教職員向け学校教育自己診断における項目「会議の有効機能」の肯定率を令和6年度には80%とする。(R1:62% R2:57% R3:71%)

(2) 次代を支える教員（ミドルリーダー・若手教員）の育成を図る。

- ア OJTや教員の自主研修、研修報告などを通して、人材の育成を図る。

(3) 業務改善を通して、働き方改革を進める。

☆ これらの取組みを通して、単位修得率の向上を図り、卒業率を高めるとともに、中学校夜間学級出身者や編入学・転入学等の生徒の学びなおしの学校としての機能を高める。これにより、セーフティーネットの学校として安定した納税者を生み出すことで大阪府に貢献する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○肯定率の高くなった項目</p> <p>「学校に対する項目」</p> <p>生徒：学校は生徒の意見をよく聞いてくれる。 《95.8%》</p> <p>保護者：学校は子どもの教育について家庭と積極的に連携している。 《100%》</p> <p>教職員：生徒指導において、家庭との緊密な連携ができています。 《100%》</p>	<p>○第1回 7月20日（水）開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験年数の少ない教員はどのような悩みを抱えているのか。 ・入学してきた生徒の目的はどのようなものか。 ・ヤングケアラーで登校できない生徒とSSWの連携はどのように行っているのか。 ・SSWやSCなどの相談先があることは財産である。相談する力はとても大切なので、相談体制づくりがよりよい事業になるよう頑張してほしい。 ・評価基準を設定した後の見とり方にはどのようなものがあるのか。

府立桃谷高等学校（Ⅲ部）

「教育活動に対する項目」

生徒：授業はわかりやすく楽しい《89.0%》学校へ行くのが楽しい。《77.8%》

学校は、みんなが楽しくおこなえるよう学校行事を工夫している。《93.0%》

保護者：授業がわかりやすく楽しいと言っている。《81.8%》
学校へ行くのを楽しみにしている《81.8%》

教職員：生徒のレベルに応じた分かりやすい授業をつくる努力をしている。《100%》
学校行事が生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている。《95.0%》

「学校に対する項目」では、昨年度と同様に教員と生徒・保護者との連携やコミュニケーションに関する項目で肯定率が高かった。日常的に様々な場面において、教員が生徒や保護者との連絡を密に行っている成果があらわれている。

「教育活動に対する項目」では、昨年度と比べて生徒と保護者から「学校や授業が楽しい」などの項目が高い肯定率を示した。教員が生徒の学力や学習状況を踏まえて授業や学校行事の内容や展開を検討し、生徒・保護者がそれを肯定的に捉えているという関係性がうかがえる。授業改善や学校行事の工夫の結果、生徒にとって「分かる・できる授業」の展開を学校全体で取り組む姿勢が定着し、学校行事が楽しいなどの肯定的な意見が増え、楽しいと思える生徒が増えたと捉えられる。

○ 肯定率の低い項目

「学校に対する項目」

生徒：環境、国際理解、福祉ボランティアなどの新しい課題について学習する機会がある。《71.4%》

保護者：この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。《36.4%》

教職員：地域の人々と接する機会を持っている。《30.0%》

「教育活動に対する項目」

生徒：授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある。《76.7%》

保護者：子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。《81.8%》

教職員：生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的な進路指導を行っている。《75.0%》

「学校に対する項目」では、昨年度と同様「地域の人々との関わり」「保護者の行事への参加」の肯定率が低い結果となった。地域との連携やさまざまな課題に対する学習など生徒が社会参画の経験を積むための取り組みを検討したり、保護者に対して行事参加への案内などを検討していく必要がある。

「教育活動に対する項目」では、生徒、保護者で挙げた項目に関しては全体と比較すると低い肯定率ではあるが、昨年度と比較すると概ね改善傾向にある。新カリキュラムや観点別学習状況評価が導入され、教員の取り組みや工夫が改善につながったのではないかと考えられる。教員の項目は昨年度と比較して肯定率は下がっている。今年度より学校として系統的な進路指導を行えるように改善を進めているが、数年かけて定着していけるように工夫をしていく。

- ・主体的に学習に取り組む態度の評価が難しいと思うが、テストだけでない授業の工夫にはどのようなものがあるのか。
- ・観点別学習状況の評価の際、ABCの基準が教員ごとにずれることはないのか。

○第2回 11月25日（金）開催

- ・観点別評価について、どのように基準を示しているのか、また統一している基準はあるのか知りたい。
- ・進路状況の人数が少なく感じるのは生涯学習コースの生徒の関係なのか教えてほしい。
- ・生徒がクラブへ入部するための取組等はしているのか知りたい。
- ・スクールミッション（案）にある「安定した納税者を生み出し、大阪府に貢献する」という一文の扱い（掲載の是非）について教育庁に打診しておいてほしい。

○第3回 2月1日（水）開催

- ・生徒の学校教育自己診断結果と授業改善との相関関係を知りたい。
- ・勤労観や就職に対する考え方は世代によって違いがあるか知りたい。
- ・学校幹旋の就職内定率の評価指標の数値について、意図するところを教えてください。
- ・勤労観についてはこちらと生徒でかけ離れている部分があると考えているので、教員と生徒が語り合うことが大切だと思う。
- ・高ストレス者への支援について、対策を教えてください。
- ・地域とのかかわりやキャリア教育について、AI翻訳機やそのほかのニーズがあれば生野区役所として対応していきたい。生野区のとある町工場では定時制の卒業生は礼儀や社会常識が身につけており、人材として求めている。御幸森小学校跡地の活用事業者では多様な生徒への支援をしており、生野区役所としても連携していきたい。
- ・観点別評価とその指導によって生徒の単位修得率が上がっており、教員の努力に結びついていると考えるので、引き続き取り組んでもらいたい。勤労観や職業観の指導として、私としては定職についてほしいという思いがある。定職につかないことによってどのように不利になっていくかを教え、そういうことも踏まえているいろいろな話をして何を子どもたちに提供すべきかを考えていただきたいと思う。
- ・勤労観職業観について、60代、70代の生徒の意見によってパーセンテージが下がっているということはないか。どのように答えているか踏まえて検討してもいいと思う。いずれにしても正しい勤労観職業観を与えるのが学校の仕事として大事であると考えているので、引き続き取り組みをお願いしたい。

府立桃谷高等学校（Ⅲ部）

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成及び教員の授業力の向上	<p>(1)「わかる授業」「できる授業」「魅力的な授業」をめざした、授業改善に取り組み、主体的に学習する力を身に付けさせる。</p> <p>ア 観点別学習状況評価の充実や1人1台端末の活用などに向けた組織的な取組を推進する。</p> <p>イ 授業アンケート等を効果的に活用し、校内研修や公開授業など、教員の授業力向上に向けた取組を進める。</p> <p>ウ 一人ひとりの「学習環境」を確保するため、授業規律の確立に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・観点別学習状況評価の充実や1人1台端末を活用した授業づくりに組織的に取り組むため、「授業研究チーム」を設置する。</p> <p>イ・教員相互に授業に対する意見交換を行い、授業改善につなげるため、研究授業や授業見学期間を設定する。</p> <p>・教員の授業力を高めるため、観点別学習状況評価や1人1台端末の活用など、テーマを絞った授業を校内で公開する。</p> <p>ウ・「授業規律」に対する生徒の意識向上を図るため、全教員が共通認識を持って、スマートフォン使用や私語などに対する指導を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断 「授業で自分の考えをまとめ発表する」肯定率75%[71.2%]。 「1人1台のタブレットを使って学びを進める機会がある」肯定率80%[77.6%] ・教職員向け学校教育自己診断 「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」肯定率90%を維持[95.2%]。</p> <p>イ・教員相互の授業見学を2回以上実施する。年間授業観察シートを提出枚数60枚[46枚]。 ・教職員向け学校教育自己診断 「他の教員の授業見学などを行い授業改善に努めている」肯定率90%を維持[95.2%]。 「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」肯定率90%を維持[95.2%]。 「生徒1人1台端末が、各教科の授業などで活用されている」肯定率75%[71.4%]</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断 「授業中は学習できる雰囲気は保たれている」肯定率80%[78.0%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業研究チーム、情報環境チームが機能した(◎) ・「授業で自分の考えをまとめ発表する」肯定率76.7%(○) ・「1人1台のタブレットを使って学びを進める機会がある」肯定率97.2%(◎) ・「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」肯定率100%(◎)</p> <p>イ・教員相互の授業見学は2回実施し、授業観察シート提出枚数は47枚(△) 授業力向上に向けた他の指標をみると、この指標と授業力向上との相関は低い可能性がある。 ・「他の教員の授業見学などを行い授業改善に努めている」肯定率90.0%(○) ・「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」肯定率95.0%(○) ・「生徒1人1台端末が、各教科の授業などで活用されている」肯定率95.0%(◎)</p> <p>ウ・「授業中は学習できる雰囲気は保たれている」肯定率88.9%(◎)</p>
2 キャリア教育及び進路指導の充実	<p>(1) 将来の自立や社会参加、進路実現につながるキャリア教育や進路指導を推進するため、カウンセリング及びガイダンス機能の充実に取り組む。</p> <p>ア 一人ひとりの生活背景から理解し、生徒に寄り添い、支援・指導を充実させる。またそのための、生徒支援体制を充実させる。</p> <p>イ 卒業生や企業、大学、専門学校等の職員からの聞き取りを通して、生徒一人ひとりに将来像を確立させる。</p> <p>ウ 一人ひとりの勤労観を育成するため、適切な進路情報を提供し、生徒の理解を深めさせる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒理解を深めるため、家庭、中学校や前籍校、勤務先などの訪問や懇談週間を設定した生徒懇談などを行う。</p> <p>・どの時期にどういった内容で実施するかを明確にした懇談を実施する。</p> <p>・個々の状況の把握するため、長期欠席等の生徒について、事務室と連携を取りつつ手紙や家庭訪問などを行う。</p> <p>・外部人材や外部機関と連携して生徒支援の充実を図るため、SCやSSW、居場所事業を活用する。</p> <p>イ・進路に対する意識を高めるため、キャリアパスポートを活用する。</p> <p>・進路総務部、担任を中心として、生徒や保護者対象の進路説明会や個別指導などを実施する。</p> <p>・進路説明会を、卒業が近づいてきた生徒以外の生徒やその保護者にまで対象を広げて実施する。</p> <p>・進路指導の充実のために、外部人材や外部機関を有効に活用する。</p> <p>ウ・進路HRや個人面談などにおいて、個々に応じた進路情報を生徒及び保護者に積極的に提供する。</p> <p>・卒業が近づいてきた生徒以外の生徒やその保護者に対する情報も含めた進路だよりを定期的に発行する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断 「相談に親身になって応じてくれる先生がいる」肯定率85%を維持[85.7%] 「教室以外に、保健室などで落ち着ける場所がある」肯定率80%[75.9%] ・教職員向け学校教育自己診断 「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」肯定率90%を維持[100%]。 「ケース会議などを通して生徒ひとりの課題について教員が向き合っている」肯定率90%を維持[100%]</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断 「将来の進路を考える機会がある」肯定率85%を維持[89.5%] ・教職員向け学校教育自己診断 「望ましい勤労観職業観がもてるよう進路指導を行っている」の肯定率85%[81.0%]</p> <p>・学校幹旋の就職希望者の内定率90%以上[100%]</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断 「進路についての情報を知らせてくれる」肯定率85%[82.8%] ・保護者向け学校教育自己診断 「進路についての情報を知らせてくれる」の肯定率90%[77.8%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「相談に親身になって応じてくれる先生」肯定率93.1%(◎) ・「教室以外の落ち着ける場所」肯定率83.1%(○) ・「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」肯定率90%(○) ・「ケース会議などを通して生徒ひとりの課題について教員が向き合っている」肯定率100%(◎)</p> <p>イ・「将来の進路を考える機会がある」肯定率90.3%(○) ・「望ましい勤労観職業観がもてる進路指導」肯定率75%(△) 「勤労観職業観」についての教員間の共通理解とそれに基づく生徒への伝達に課題が残った。 ・学校幹旋の就職希望者の内定率100%(◎)</p> <p>ウ・「進路情報周知(生徒)」肯定率88.9%(○) ・「進路情報周知(保護者)」肯定率100%(◎)</p>

府立桃谷高等学校（Ⅲ部）

<p>3 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成</p>	<p>(1) 特別活動や生徒会活動を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を醸成する。</p> <p>ア 行事や生徒会活動、部活動などを通して、集団の中で人と調和し成功体験を得られるよう、生徒が主体となる活動を支援する。</p> <p>イ 人間関係形成能力を育成するため、「あいさつ運動」に取り組む。</p> <p>(2) 生命の尊さに気づかせ、自他を認める態度や人格を育成し、社会の一員としての自覚と責任を醸成する。</p> <p>ア 様々な人権問題の解決をめざし、人権教育に総合的に取り組み、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。</p> <p>イ 災害時等に生徒が自他の命を守ることができるよう、安全指導の充実を推進する</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒が「学校に行くのが楽しい」と感じるためのニーズを把握するため、生徒へのリサーチを実施し、その結果を踏まえて各種学校活動の改善に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間やLHRにおいて、生徒の学校への帰属意識が高まるような実施方法・内容とする。 多くの生徒が参加できるよう、学校行事の充実を引き続き取り組む。 始業式や終業式、生徒集会の場面や校内掲示板等を活用して「部活動紹介」や「各種大会・発表会の受賞者紹介」を積極的に行う。 <p>イ・校内において教員が挨拶を励行し、登下校時の「あいさつ運動」に取り組む。</p> <p>(2)</p> <p>ア・「人権教育年間計画」に基づき、教科や特別活動など教育活動全体で人権教育を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が卒業までに多様な人権課題をバランスよく学習できるよう、過去の人権HRをふまえた今年度の人権HRを企画立案する。 合格者説明会、受講指導等を利用し、本名指導を行う。 道徳教育の側面からも学校全体として人権教育にアプローチできるという観点で、道徳教育推進教師を中心に作成した道徳教育の全体計画を周知する。 <p>イ・生徒の安全に関する意識の向上を図り、災害時の避難行動について理解できるように、他部・他課程との連携を意識した実践的な避難訓練を実施するとともに、訓練以外の方法での啓発を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 夜間の避難に対応できるよう、校内掲示等、安全対策を充実させる。 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断 「学校に行くのが楽しい」肯定率 70% [66.1%] 「学校行事に楽しく取り組んでいる」肯定率 75% [71.9%]</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員向け学校教育自己診断 「主体的に活動できるよう学校全体で支援している」肯定率 90%を維持[90.5%] 「部活動の活性化について工夫している」肯定率 60% [52.4%] <p>イ・生徒向け学校教育自己診断 「あいさつができています」肯定率 90% [88.1%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断 「人権の大切さについて学ぶ機会がある」肯定率 90% [89.8%] 「命の大切さやルールについて学ぶ機会がある」の肯定率 90%を維持[91.5%]</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員向け学校教育自己診断 「人権問題を正しく理解し、差別や偏見のない社会をめざす主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している」肯定率 90%を維持[90.5%] <p>イ・生徒向け学校教育自己診断 「災害時の避難行動について具体的に知らされている」の肯定率 90% [84.5%]</p>	<p>ア・「学校に行くのが楽しい」肯定率 77.8% (○) ・「学校行事に楽しく取り組んでいる」肯定率 85.7% (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「主体的に活動できるよう学校全体で支援」肯定率 90.0% (○) 「部活動の活性化について工夫」肯定率 85.0% (◎) 学校生活に前向きな生徒が多く入学したこともあり、部活動の活性化がみられた (◎) <p>イ・「あいさつができています」肯定率 90.3% (○)</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「人権の大切さを学ぶ機会」肯定率 95.8% (○) 「命の大切さやルールを学ぶ機会」の肯定率 91.5% (○) 「人権学習の工夫」肯定率 100% (◎) <p>イ・「災害時の避難行動の具体的な周知」の肯定率 97.2% (○)</p>
<p>4 学校運営体制の確立及び人材の育成</p>	<p>(1) 迅速な意思決定により、機動力のある効率的な学校運営をめざす。</p> <p>ア 「学校組織運営に関する指針」に基づき、企画会議及び運営委員会を学校運営の核として位置づけた学校運営をすすめる。</p> <p>イ 分掌や年次会、委員会等、各組織間の連携を密にし、校務の効率化を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・緊急の場合を除き、職員会議にとりあげられる内容は運営委員会を経たものに限るようにする。</p> <p>イ・分掌会議や年次会、委員会などで十分に意見交換し、取組みに教職員の意見を反映させる。あわせて、校務の効率化を図るため、会議間の情報共有を密にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての会議において、議事の精選、会議資料の事前配付等を行い、1時間以内で終わるようにする。1時間以上を要すると想定できる場合は事前に構成員に周知する。 	<p>(1)</p> <p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員向け学校教育自己診断 「各種会議の有効機能」肯定率 75% [71.4%] 「学校運営に教職員の意見が反映されている」肯定率 85%を維持[85.7%] 「分掌や年次の連携」肯定率 85%を維持[85.7%] 原則、会議時間は1時間。運営委員会及び職員会議の平均会議時間については60分以内を維持[約50分] 	<p>(1)</p> <p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「各種会議の有効機能」肯定率 90% (◎) 「学校運営への教職員の意見反映」肯定率 75.0% (△) 教職員に十分意見を聞く時間がないまま判断せざるを得ない事案が生じた 「分掌や年次の連携」肯定率 90.0% (○) 平均会議時間（運営委員会、職員会議）は12月末で約32分 (◎)

府立桃谷高等学校（Ⅲ部）

<p>（2）次代を支える教員（ミドルリーダー・若手教員）の育成を図る。</p> <p>ア OJT や教員の自主研修、研修報告などを通して、人材の育成を図る。</p> <p>（3）業務改善を通して、働き方改革を進める。</p>	<p>（2）</p> <p>ア・教職員としての基本的な力量を高めさせ、人材育成を図るため、経験年数の少ない教職員を対象としたOJTや教員の自主研修を実施する。</p> <p>・職員会議等で誰がどの研修等に参加しているかを周知するとともに、校外研修等の成果を伝達する機会を設ける。</p> <p>（3）</p> <p>・あらゆる業務が効率的で効果的となるよう、個人へ業務量や業務上の責任の分散を図るため、校内組織や校内人事の見直しを行う。</p>	<p>（2）</p> <p>・経験年数の少ない教職員の悩みや思いを聞く機会（自主研修や懇話会）を年1回以上実施する。</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「研修成果の伝達機会の設定」肯定率80%[71.4%]</p> <p>（3）</p> <p>・ストレスチェック 総合健康リスク100未満を維持[96] 高ストレス判定者率10%未満[14%]</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「教職員が意欲的に取り組める環境にある」肯定率70%[66.7%]</p>	<p>（2）</p> <p>・自主研修会を年間6回開催した（◎）</p> <p>・「研修成果の伝達機会の設定」肯定率65.0%（△） スポット的には実施できたが、計画的には実施できなかった</p> <p>（3）</p> <p>・総合健康リスク99（○）</p> <p>・高ストレス判定者率16%（△）</p> <p>・「教職員が意欲的に取り組める環境」肯定率65.0%（△） 上司からのサポートと高ストレスと思われる者へのケアが至らなかった部分があった</p>
--	--	--	--